

令和3年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市教育委員会

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和3年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

令和3年5月27日(木)

4 調査の内容

(国語、算数・数学) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学とする。 ・ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。 	
	【小学校 国語・算数 各45分】	
	【中学校 国語・数学 各50分】	
生活習慣や学習環境等 に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など
【小学校・中学校とも20分程度】		

桶川市の調査結果の概況

小学校

<教科に関する調査> [] は全国平均正答率を上回ったもの

国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと	3	76.6	77.5	77.8
書くこと	2	62.4	61.6	60.7
読むこと	3	47.2	46.8	47.2
言葉の特徴や使い方に関する事項	6	67.4	68.9	68.3

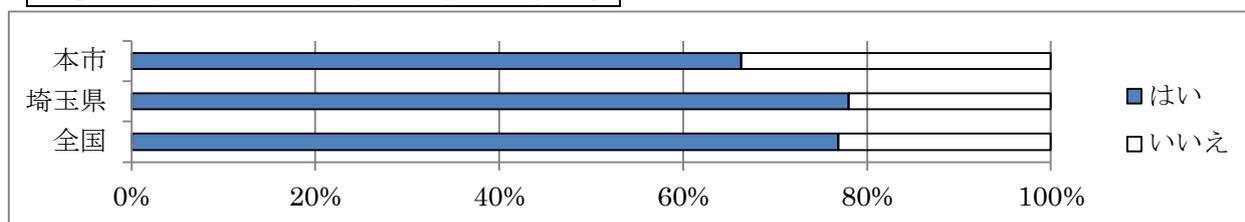
算数				
学習指導要領の領域	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	4	61.5	61.2	63.1
図形	3	49.8	54.8	57.9
測定	3	73.2	72.5	74.8
変化と関係	3	75.6	75.8	75.9
データの活用	5	76.4	76.2	76.0

<児童への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

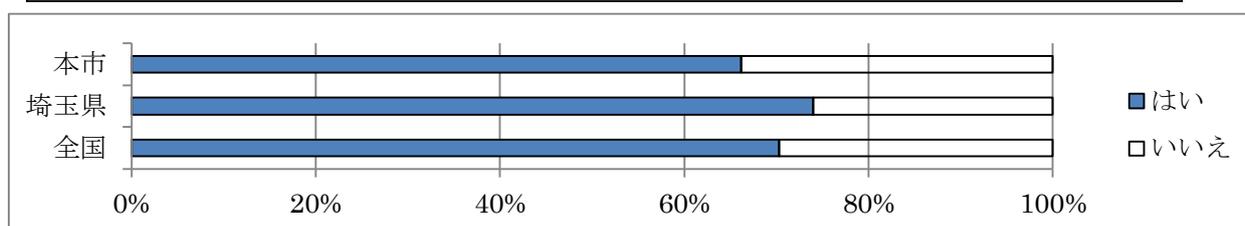
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

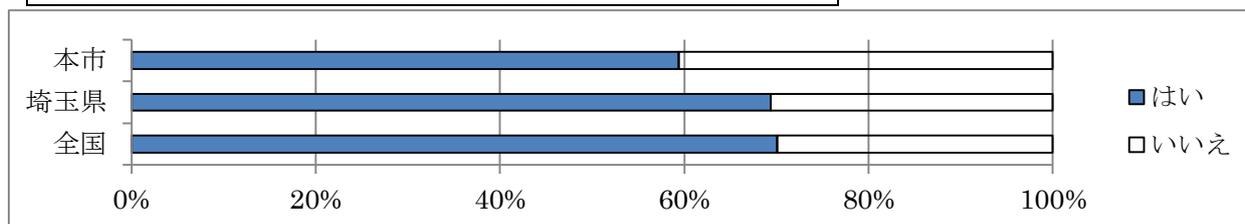
自分には良いところがあると思いますか。



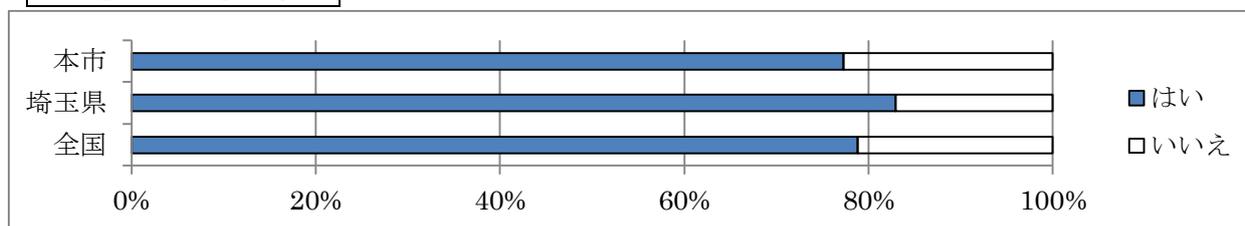
自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。



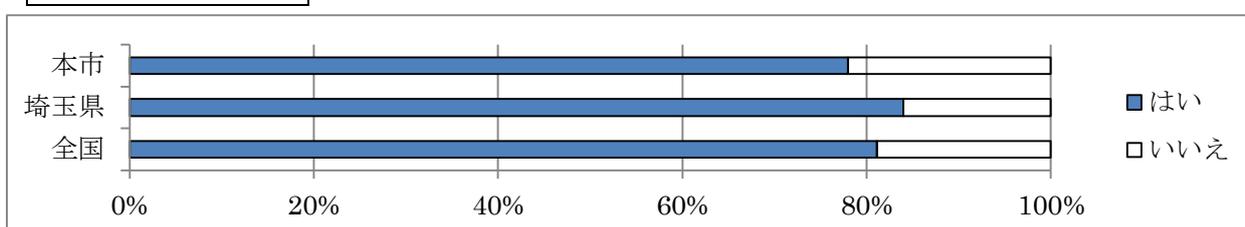
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



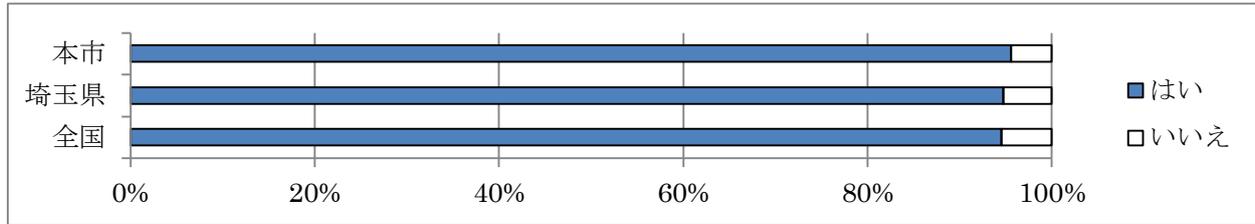
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



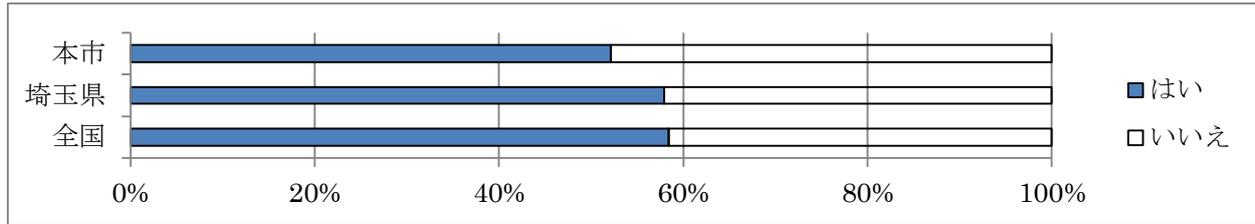
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。



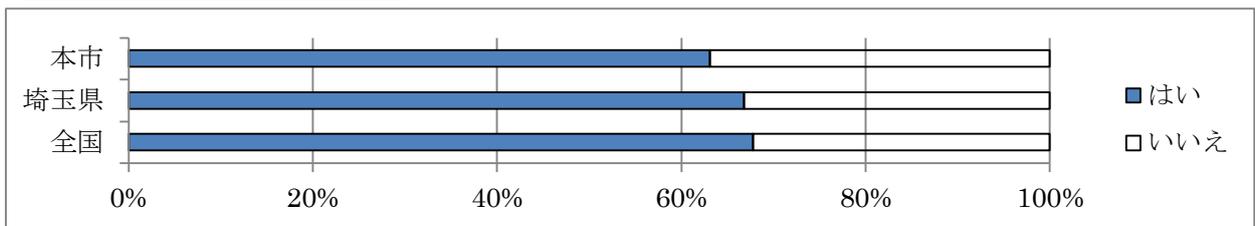
学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



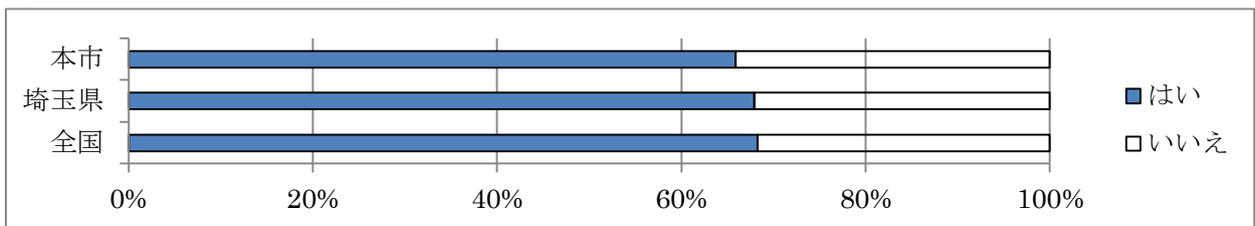
国語の勉強は好きですか。



算数の勉強は好きですか。



英語の勉強は好きですか。



中学校

<教科に関する調査> は全国平均正答率を上回ったもの

国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと	3	80.6	79.8	79.8
書くこと	2	55.1	56.7	57.1
読むこと	4	49.7	48.2	48.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	75.1	75.8	75.1

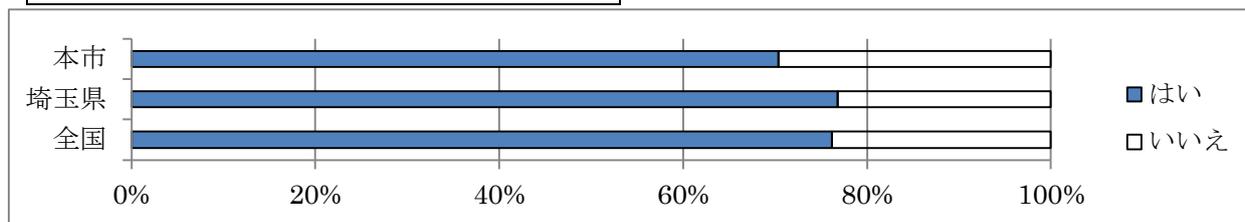
数学				
学習指導要領の領域	設問数	本市平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	63.9	64.3	64.9
図形	4	51.4	52.0	51.4
関数	3	56.5	55.5	56.4
資料の活用	4	53.6	53.2	53.8

<生徒への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

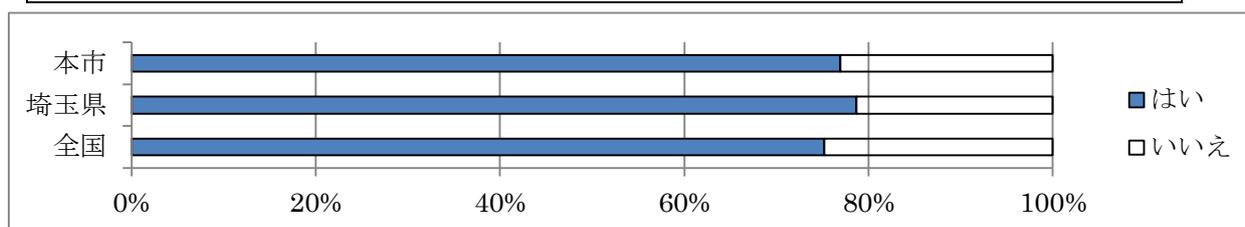
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

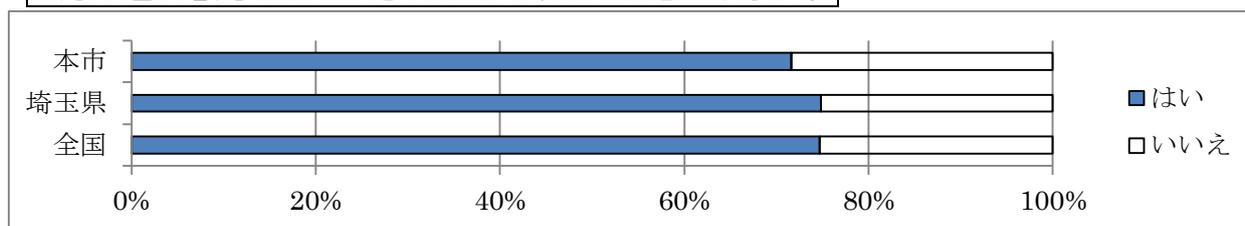
自分には良いところがあると思いますか。



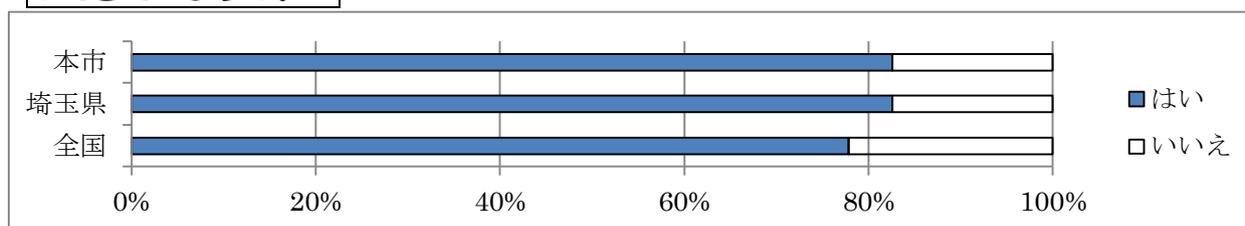
自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。



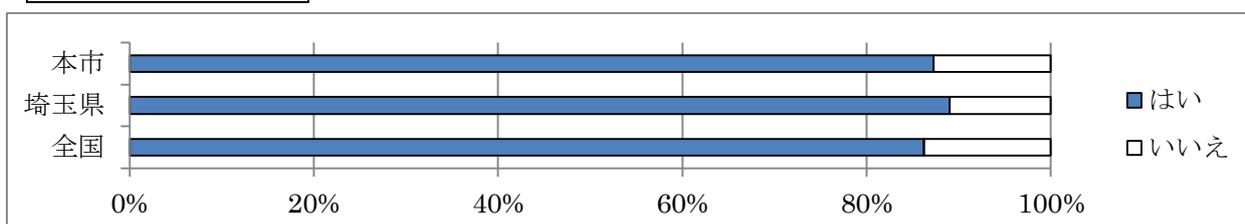
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



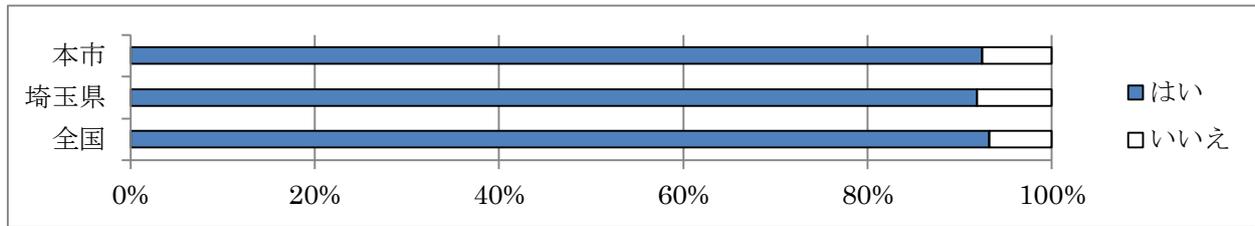
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。



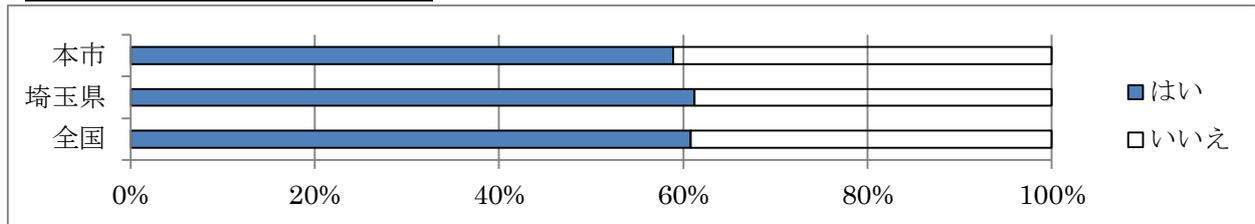
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。



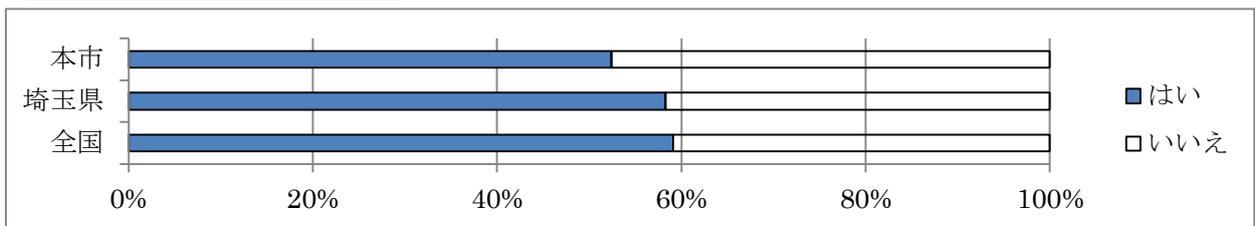
学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



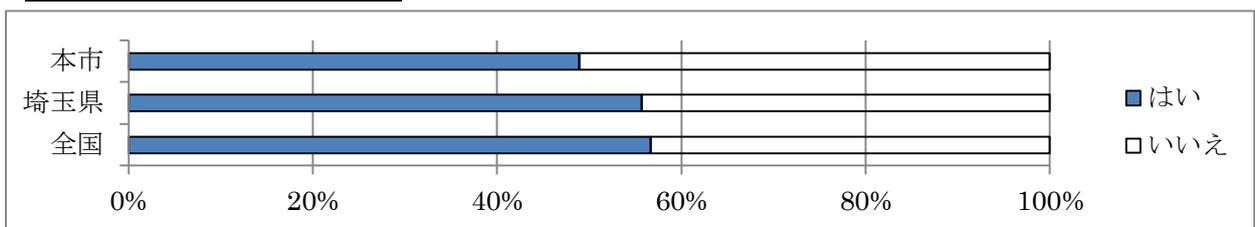
国語の勉強は好きですか。



数学の勉強は好きですか。



英語の勉強は好きですか。



桶川市の調査結果の分析・考察

<小学校国語>

【領域別の分析】

結果からわかること

- 「書くこと」「読むこと」は全国及び県の平均正答率と同じ、もしくは上回りました。
- ◆「話すこと・聞くこと」は、全国及び県の平均正答率を下回りました。

分析

- 「自分の主張が伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」こと等は、定着がみられます。
- ◆「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」ことや、「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」こと等、言葉の特徴や使い方に関する事項については、課題がみられます。

【問題例①】

問題 2 四

資料を読み、面ファスナーが宇宙でどのように使われているか、条件に合わせて書く問題。

正答例

面ファスナーはしっかりとくっつき簡単にはがせることから、物がうかぶ国際宇宙ステーションの中で、身の回りのすべての物の固定に使われている。(70字)

本市正答率 31.5%
全国正答率 29.7%

<分析>

- ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる問題です。相川さんが、面ファスナーが宇宙でも使われていることについて端的にまとめようとしていることを捉え、条件にある「面ファスナーのよさ」と「国際ステーションでの使われ方」についての必要な情報を【資料】で説明されていることから見付けて要約し分量を考えながらまとめることが求められています。
- ◆誤答として、「宇宙ステーションでの使われ方」について書かれているものの「面ファスナーのよさ」について満たしていないものが多くありました。文章全体の内容を正確に把握した上で、目的に応じて必要な情報を的確にまとめることが必要です。

【問題例②】

問題 3 一

意見文の下書きを読み、構成についての説明として適切なものを選択する問題。

正答 2

本市正答率 68.2%
全国正答率 64.8%

<分析>

誤答類型	誤答率 (%)	
	本市	全国
1	9.2	10.6
3	7.5	7.7
4	14.2	14.5
無回答	0.9	2.1

- 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題です。【文章の下書き】の最初の段落に「だれもが気持ちよく生活するために、一人一人が責任をもって使った物をかたづけることが大切だ」と書き、最後の段落にも「一人一人が責任をもってかたづけることが大切だ」と繰り返して書いて強調しています。
- ◆「4」を選択した人は、構成は捉えています。が、「複数の異なる主張」ではないことを捉える必要があります。自分の主張、それを支える理由や事例は何かを明確にした上で相手に効果的に伝わる構成を検討する学習活動が有効です。

<小学校算数>

【領域別の分析】

結果から分かること

- 「データの活用」では、県平均正答率・全国平均正答率ともに上回っています。
- ◆「図形」「変化と関係」では、県平均正答率・全国平均正答率ともに下回っています。

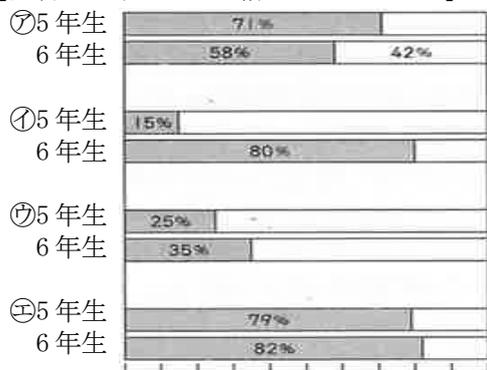
分析

- 帯グラフの問題場面では、複数のデータの特徴や傾向をとらえ、データの比較やどのようなデータを集めるべきか判断することに、平均より高い定着が見られました。
- ◆直角三角形の問題場面では、面積の求め方や複数の図形を組み合わせた面積の求め方について課題が見られました。
- ◆小数を用いた倍の計算について記述で答える問題場面では、無解答率の割合が県や全国と比べて高くなっており、課題が見られました。

【問題例①】

問題 3 (4)

【図書室で本をあまり借りていない理由】



■ あてはまる □ あてはまらない

- ㊶図書室に読みたい本がない
- ㊷図書館に行く時間がない
- ㊸ページ数が多く読み終わるのに時間がかかる
- ㊹地域の図書館で本を借りている

5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合の違いが一番大きい項目はどれですか。またその項目について「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何%ですか。項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書きましょう。

【正答】

- ①図書館に行く時間がない。
- ②5年生の「あてはまる」の割合は15%
- ③6年生の「あてはまる」の割合は80%
- ①②③をすべて使った記述が正答

<分析>

- データを活用し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述することにおいて、全国、埼玉県よりも高い平均正答率になっています。
- 質問されている内容を理解し、それに合ったデータの特徴や傾向をとらえて的確な記述をすることが大切です。

【問題例②】

問題 2 (1) (2)

- (1)
直角三角形の面積は何 cm^2 ですか。

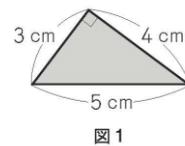
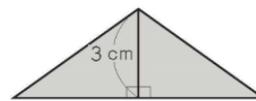


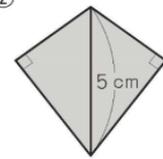
図1

- (2) 図1の直角三角形が2つあります。

①



②



①と②の図形の面積について、どの様なことが分かりますか。1から4の中から1つ選びましょう。

- ①のほうが大きい
- ②のほうが大きい
- ①と②の面積は等しい
- ①と②の面積は、このままでは比べることができない。

【正答】

- (1) $3 \times 4 \div 2 = 6$ cm^2
(2) 3

<分析>

- ◆ (1) では、 $3 \times 4 = 12$ cm^2 と誤答したもの、 $3 \times 4 \times 5$ または $3 \times 4 \times 5 \div 2$ と誤答したものの割合が、全国、埼玉県よりも高くなっています。
- ◎ 三角形の底辺や高さの関係を理解し、面積を求めるにはどこの長さが必要かを理解することが大切です。
- ◆ (2) では、1と誤答したもの、2と誤答したものの割合が、全国、埼玉県よりも高くなっています。
- ◎ 図形の面積について、位置や向きによらず、面積は等しいということをとらえることが必要です。

＜小学校質問紙調査＞

【質問例①】

質問

学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

回答結果

「役に立つ」「どちらかといえば役に立つ」と答えた本市児童の割合
95.6%
(全国 94.5%)

＜分析＞

- 「役に立つ」「どちらかといえば役に立つ」と回答した児童の割合が非常に高く全国と比較しても 1 ポイント以上、上回っています。
- GIGA スクール構想により、ICT 環境が整備されたことにより、学習の中での ICT 機器の活用が進んだことが高ポイントの要因であると考えられます。
- ◎本市の小学校では、様々な場面で ICT 機器を活用した授業を展開しております。また、児童自身も機器の活用慣れてきております。今後も、ICT 機器の活用を進めるとともに、より効果的な活用方法の研究を進めてまいります。

【質問例②】

質問

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

回答結果

「している」「どちらかといえばしている」と答えた本市の児童の割合
91.4%
(全国 90.4%)

＜分析＞

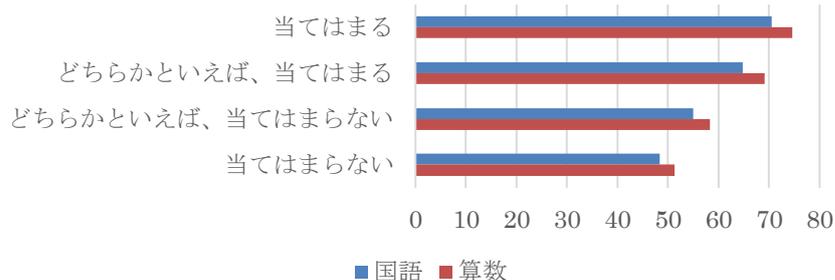
- 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合は、全国と比較して 1 ポイント上回ったのみでしたが、「当てはまる」と答えた児童のみの場合は 4.1 ポイント上回っています。
- 各家庭において起床時刻がしっかりと定められている場合が多く、その時間に起きる習慣ができている児童が多いと考えられます。
- ◎引き続き規則正しい生活ができるよう、家庭と学校が連携してることが大切です。規則正しい生活習慣の定着について、家庭への啓発等を進めてまいります。

クロス集計の結果

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか×「教科に関する調査」(正答率)

	児童数の割合	国語 (平均正答率)	算数 (平均正答率)
当てはまる	29.5%	70.6%	74.6%
どちらかといえば、当てはまる	50.2%	64.8%	69.2%
どちらかといえば、当てはまらない	16.2%	55.0%	58.3%
当てはまらない	4.1%	48.4%	51.3%

国語と算数の平均正答率



課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童とそうでない児童の正答率に差があります。主体的に学習に取り組むことができるような授業づくりを推進してまいります。

＜中学校国語＞

【領域別の分析】

結果からわかること

○「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で全国及び県の平均正答率を上回りました。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国の平均正答率と同じになりました。

◆「書くこと」の領域で全国及び県の平均正答率を下回りました。

分析

○「話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」ことや、「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」ことなどは、高い定着が見られます。

◆「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」ことや、「相手や場に応じて敬語を適切に使う」ことにはやや課題が見られました。

【問題例①】

問題 1 三

大野さんの発言をとらえて、誰がどのように発言するとよいか、またその理由を書く問題。

正答例

本田さんが、次の発言者として石川さんを指名する発言をすればよい。なぜなら、山下さんの質問に石川さんが答える前に、大野さんが別の質問をしたからだ。

本市正答率 59.2%

全国正答率 57.1%

＜分析＞

◎話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることができるかどうかをみる問題です。【話し合いの一部】の①～⑥までのやり取りを踏まえて書く必要があります。司会者は「一つの質問に対する答えが終わってから、次の質問をするようにしてください。」と述べています。しかし、直前の山下さんの質問に対する答えが述べられていない中で、大野さんから新たな質問が出されています。このことを捉えたうえで、求められている「発言者」「発言内容」「その理由」すべてについて、また、具体的な発言の内容として書くことが求められています。

◆誤答として、自分の考えを書いてしまうこと、発言の理由を「その方がよいから」等具体的に書けていないことが考えられます。

【問題例②】

問題 2 一

意見文の下書きを読み、書き直した意図について選択する問題。

正答 1

本市正答率 20.3%

全国正答率 24.8%

＜分析＞

◆書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかどうかをみる問題です。誤答については、**1**段落で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明するために「集合場所までどうやって来るの。」と言葉を加えているものであることを捉えること、直前の文で述べている意見の根拠であることをより明確にするために「からだ」を加えて文末表現を工夫しているものであることを捉えることに課題があると考えられます。

○読みやすく分かりやすい文章にするために、書き手としてだけではなく、読み手の立場に立って文章を整えることが大切です。語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、文章を読み返すことが求められます。その際、伝えたい事柄等にふさわしい語句や文の使い方になっているか、段落の設け方、段落相互の関係は適切か、全体と部分の関係はどのようになっているかなど検討することが大切です。書くことによって、複雑な事象の中身や、物事に対する多様な考え方などが整理され、自分の考えを広げることにつながっていきます。

<中学校数学>

【領域別の分析】

結果から分かること

○全体では、全国の平均とほぼ同程度の正答率です。「数学的スキル」の観点の正答率は全国平均を0.4ポイント上回りました。

◆「数と式」の領域では、全国の平均を1ポイント下回りました。「数学的な見方や考え方」の観点の正答率は全国平均を0.8ポイント下回りました。

分析

○計算したり、公式などにあてはめ値を求めたりすることを正確に行うことができる生徒が多い。

◆既習事項をもとに、自ら思考し正答を導き出したり、問題の解き方を数学的に表現したりすることに苦手意識をもつ生徒が多い。

【問題例①】

問題 5

下の記録は、ある中学校の男子生徒10人が反復横とびを行ったときの結果を、回数の少ない方から順に並べたものです。

記録

43 46 46 52 53 55 56 56 56 57

反復横とびの記録の中央値を求めなさい。

正答 (数学的スキル)

5 4回 本市正答率 86.4%
(県) 85.8% (全国) 84.5%

<分析>

誤答例

53・55 本市解答率 5.5% (全国) 7.8%

52 本市解答率 2.8% (全国) 2.5%

○本市正答率は、全国に比べて1.9ポイント上回っています。無解答率も1.0%と非常に低くなっています。

◆誤答では、平均値を求めてしまい、52と回答してしまう割合が高く、中央値と平均値を混同してしまったと考えられます。

◎目的に応じて収集したデータを捉え、どの代表値を用いるべきか判断し、データの傾向を的確に読み取ることが大切です。データ数が偶数である場合に、中央にある2つのデータの平均値が中央値であることを理解する必要があります。代表値や中央値、平均値や最大値・最小値等の言葉についても正しい理解が必要です。

【問題例②】

問題 9 (1)

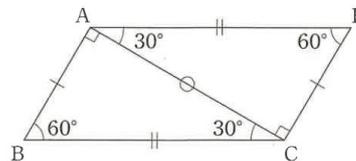
図4において $\triangle ABC$ $\triangle CEA$ は合同なので、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことがわかります。このことから、四角形 $ABCE$ が平行四辺形になることは、平行四辺形になるための条件を用いて説明できます。

下のア、イのどちらかを選び、選んだ条件を用いて説明しなさい。

ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

イ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

図4



正答 (数学的な見方や考え方)

アの場合

$$AB = CE \quad \dots \quad \textcircled{1}$$

$$BC = EA \quad \dots \quad \textcircled{2}$$

①②により、2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

イの場合

$$\angle ABC = \angle CEA \quad \dots \quad \textcircled{1}$$

$$\angle EAB = \angle BCE \quad \dots \quad \textcircled{2}$$

①②により、2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

本市正答率 42.9%

(県) 47.1% (全国) 44.3%

<分析>

誤答例

①②のいずれかを解答

本市解答率 15.9% (全国) 12.2%

上記以外の解答

本市解答率 21.5% (全国) 22.6%

◆本市正答率は、全国に比べて 1.4 ポイント下回りました。県に比べると 4.2 ポイント下回っており、数学的な見方や考え方をを用いて説明することに課題が見られました。

◆証明の意味及び方法について理解する必要があります。

◎筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を数学的に表現するために、既習内容を活かして論理的に考察し表現する学習を積み重ねることが必要です。

＜中学校質問紙調査＞

【質問例①】

質問

あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。

回答結果

「ほぼ毎日」「週1回以上」と答えた本市生徒の割合

47.8%

＜分析＞

- 「ほぼ毎日」「週1回以上」と答えた生徒の割合は、全国の平均を13ポイント上回っています。
- また、「2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」について「ほぼ毎日」「週1回以上」と答えた生徒は18.6ポイントだったことから、今年度ICT機器の活用が進んでいることが読み取れます。
- ◎今年度より一人一台端末環境が整備され、ICT機器のより効果的な活用が必要です。また、ICT機器について学習内容や場面にあった効果的な活用方法を自ら考える場面を作ることが、より主体的な学びや深い学びにつながります。

【質問例②】

質問

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本市生徒の割合

82.6%

＜分析＞

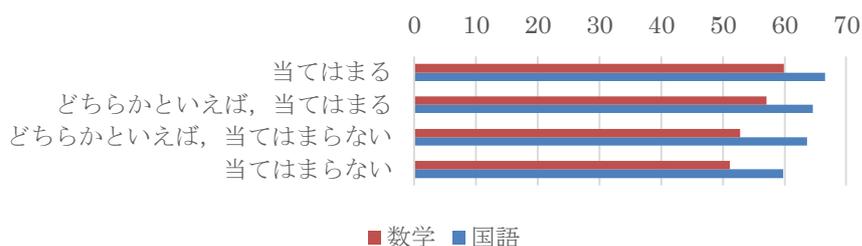
- 「当てはまる」と答えた生徒は全国平均を2.4ポイント下回っていますが、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均を4.8ポイント上回っています。
- 生徒間で話し合う機会の中で、自分の考えが深まったり、広げたりできた経験をした生徒が数多くいることが読み取れます。
- ◎話し合う経験をより多く積ませる機会を設けるとともに、国語学習の基礎基本の定着を図ることが必要です。さらに、自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表す力の向上を図ることで、話しやすい環境を作り、対話的で深い学びの学習になり、生徒の学力の向上につながります。

クロス集計の結果

「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」×「教科に関する調査」(正答率)

選択肢	生徒数の割合	国語 (平均正答率)	数学 (平均正答率)
当てはまる	29.4%	66.6%	59.9%
どちらかといえば、当てはまる	47.5%	64.6%	57.1%
どちらかといえば、当てはまらない	17.0%	63.6%	52.8%
当てはまらない	6.0%	59.8%	51.1%

国語と数学の平均正答率



自分の思いや考えを言葉で表すことのできる生徒とそうでない生徒の正答率に差があります。表現力の向上を大切と捉え、授業改善を図ってまいります。



<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和3年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

令和3年5月12日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

桶川市の調査結果の概況

小学校

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	12	72.6	71.6	13	58.9	58.0	14	61.9	61.6
情報の扱い方、我が国の言語文化	5	70.8	67.9	4	59.5	60.1	3	72.7	72.7
話すこと・聞くこと・書くこと	5	28.9	29.3	4	39.4	40.6	4	43.9	43.9
読むこと	4	42.7	41.1	9	60.8	60.3	9	56.7	55.8
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑	↑↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と計算	12	74.6	72.2	13	65.7	65.0	12	62.8	63.1
図形	6	60.2	58.3	6	61.2	60.4	7	62.2	62.3
測定	6	73.9	71.6	7	61.3	61.2	6	64.0	64.2
データの活用	6	76.9	75.2	6	56.4	56.1	7	52.6	53.1
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑

<児童への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段:本市の達成率、下段:県の達成率、 は80%以上 (%)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	91.2 91.5	93.7 93.4	93.6 94.0
	② 授業の開始時刻	89.4 90.5	92.8 93.2	92.7 94.8
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	79.0 83.3	84.6 83.6	83.6 86.8
	④ 整理整頓	78.8 78.8	81.6 80.2	77.1 78.8
	○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする		
⑤ あいさつ		74.0 78.5	74.6 78.2	78.3 78.0
⑥ 返事		85.3 87.5	90.2 87.9	85.8 86.4
4 ていねいな言葉づかいを身に付ける				
⑦ ていねいな言葉づかい		86.1 86.0	88.4 86.7	87.5 88.0
⑧ やさしい言葉づかい		86.0 84.6	85.3 84.6	80.5 84.1
○約束やきまりを守ることができる		5 学習のきまりを守る		
	⑨ 学習準備	85.8 84.1	89.6 85.9	88.0 86.6
	⑩ 話を聞き発表する	74.0 76.4	77.2 76.0	68.1 72.7
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	85.3 83.5	83.2 83.6	81.2 83.9
	⑫ 掃除・美化活動	90.9 91.1	90.2 88.7	86.4 87.4

中学校

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	13	66.1	64.8						
情報の扱い方、我が国の言語文化	5	50.2	52.2						
話すこと・聞くこと・書くこと	4	52.1	53.5	4	64.0	67.3	4	49.4	48.7
読むこと	8	66.4	65.3	9	57.6	58.3	9	81.7	81.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項				17	64.0	64.7	17	65.2	65.4
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑	↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑

数学（内容は算数）	第1学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と計算	12	61.7	64.1
図形	8	53.7	55.2
変化と関係	6	51.6	53.3
データの活用	6	61.1	61.6
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑↑	↑↑↑↑

数学	第2学年			第3学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と式	12	58.1	60.9	12	66.2	63.3
図形	6	51.7	54.8	7	64.8	63.8
関数	8	53.7	55.5	7	55.9	53.6
資料の活用	6	61.1	64.8	6	51.6	46.4
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑↑↑	↑↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑

英語	第2学年			第3学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	64.6	64.6	10	65.4	61.0
読むこと	18	64.8	65.2	18	62.1	60.2
書くこと	7	49.9	53.2	7	59.3	57.7
※学力の伸びた生徒の割合					↑↑↑↑	↑↑↑↑

<生徒への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段:本市の達成率、下段:県の達成率、 は80%以上 (%)

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年	
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る				
	① 登校時刻	97.2 97.9	96.5 96.7	96.7 96.7	
	② 授業開始時刻	93.4 96.9	96.0 97.6	98.8 98.0	
	2 身の回りの整理整頓をする				
	③ 靴そろえ	87.0 89.9	90.1 91.0	92.1 92.5	
	④ 整理整頓	77.2 76.7	79.9 78.6	78.7 80.5	
	○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
		⑤ あいさつ	81.9 82.8	82.8 82.6	86.1 84.2
⑥ 返事		86.8 87.8	89.2 87.4	90.9 89.6	
4 ていねいな言葉づかいを身に付ける					
⑦ ていねいな言葉づかい		88.5 90.4	91.5 91.2	96.0 93.7	
⑧ やさしい言葉づかい		83.6 87.3	85.1 87.4	89.5 90.3	
○約束やきまりを守ることができる		5 学習のきまりを守る			
		⑨ 学習準備	89.5 91.5	92.7 91.8	95.4 93.7
	⑩ 話を聞き発表する	73.4 76.1	73.4 73.8	80.1 76.7	
	6 生活のきまりを守る				
	⑪ 集団の場での態度	89.6 92.1	93.4 93.2	96.9 95.5	
	⑫ 掃除・美化活動	79.5 86.4	84.9 85.3	87.5 86.5	

桶川市の学力向上の取組

教育委員会では、学力向上を教育行政の最重要課題として位置付けており、各学校におけるより一層の学習指導の改善・充実に向け、支援を行っています。「確かな学力」を身に付けさせるために、「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「主体的に学習に取り組む態度の涵養」を重点に取り組んでいるところです。

また、各学校においては、児童生徒の現状を全国や埼玉県の学力・学習状況調査の結果や各種調査を分析して、その結果に至った要因や課題を明らかにし、具体的な学力向上プランを作成し、授業改善等に取り組むことを指導しています。教育委員会といたしましては、市内全小・中学校への学校訪問を行い、学校課題研究の充実や学力向上に向けた授業改善等についての指導・助言を通して、各学校の取組の推進を支援してまいります。

1 学校課題研究（校内研修）の充実

- (1) 研究主題に迫るための授業研究会の実施
- (2) 今年度の研究発表校

学校名	研究領域	研究主題等	研究発表 会
桶川小学校	国語科	自分の考えを持ち、生き生きと交流する児童の育成 ～「伝えたい」を高める授業づくり～	令和3年 10月22日 (金)
桶川東小学校	国語科	論理的に文章を読み取ることができるけやきっ子の育成 ～児童が楽しく学び合い、「わかる・できる」授業づくり～	令和3年 10月29日 (金)
桶川中学校	学習指導	「深い学び」へと導く授業の在り方を目指して ～主体的な学びを通じた表現力の育成～	令和3年 11月24日 (水)
川田谷小学校	学力向上	主体的に学習に取り組む児童の育成 ～国語・算数の学習活動の工夫を通して～	令和3年 11月25日 (木)
桶川西中学校	道徳科	豊かな心を育む道徳教育の充実 ～「考え、議論する」道徳の実践を中心として～	令和3年 11月26日 (金)

2 具体的な指導方法の工夫・改善

- (1) 主体的な学びの実現のために
 - 意欲を高めることにつながる授業導入の工夫と課題に対応したまとめを行う。
 - 学習課題（ねらい）を明示し、見通しをもたせ、追究方法や手順等の選択・決定を支援する。
- (2) 対話的な学びの実現のために
 - 活動に応じた学習形態を設定する。
 - 意見を交換したり、発表をしたり、聞いたりしながら考えをまとめ、必要に応じ ICT を活用していく授業を展開する。
- (3) 深い学びの実現のために
 - 考えを可視化させる思考ツール等を積極的に活用する。
 - 予想の場や試行錯誤する場の設定を行う。
 - 実験や体験活動を充実させる。
- (4) ICTの効果的な活用のために
 - 授業のねらいを示したり、学習課題への興味関心を高めたり、学習内容をわかりやすく説明したりする方法の一つとして ICT を活用する。
 - 児童生徒が、情報を収集や選択したり、文章・図や表にまとめたり、表現したりする際に、或いは、繰り返し学習によって知識の定着や技能の習熟を図る際に、ICT を活用させる。

3 個に応じた指導の充実

(1) TTや少人数指導などきめ細やかな指導の充実

*TT (ティーム・ティーチング) …1 教室に複数の教師が入り、分担・協力して指導する方法

*少人数指導…学級よりも少人数の集団で授業を行う方法

(2) 各種補助員・支援員等の配置

個に応じた指導を充実させるため、各校に学校図書館教育補助員、教育指導補助員、ICT 支援員、各小学校に理科支援員、必要に応じて日本語指導員を配置する。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問の回答では、小学校では64.0%、中学校では63.2%が肯定的な回答をしていますが、全国と比べるとそれぞれ6.1ポイント、4.7ポイント低くなっています。GIGA スクール構想に伴い、ICT 環境が全国で一斉に整備され、児童生徒にとって ICT は「文房具」と同じように必要なものとなります。そのような中、情報モラル教育の重要性は益々高くなっており、ぜひ、ご家庭でも話題にいただき、共に考える場面を増やしていただくようお願いいたします。

また、教科においては、基礎的・基本的な知識の理解に課題が見られます。習った事項の定着のためには、家庭学習での復習が欠かせません。引き続き定着のために、宿題だけでなく、自主学習の習慣が身に付くように、家庭でもお声掛けいただきますようお願いいたします。

令和3年度 桶川市教育委員会 学校教育 指導の重点

桶川市教育行政基本方針の基本理念 「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」

- 基本目標**
- I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実
 - II 豊かな心の育成と人権意識の高揚
 - III 健やかな体の育成
 - IV 家庭・地域の教育力の向上
 - V 生涯にわたる学びとスポーツの支援
 - VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

<p>学校経営</p> <p>○学校教育目標の実現を目指した全教職員が相互に協力する教育活動を積極的に展開する</p> <p>小・中学校8年間を見通した一貫性のある学校教育の推進 (I)</p> <p>学習環境の整備・充実 (I)</p> <p>教職員の資質能力の向上 (I)</p> <p>学校運営協議会・学校応援団の充実 (IV)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育目標の具現化 ○ 地域や各学校、児童生徒の実態に即した教育課題の明示とそれを解決するための創意工夫のある教育課程の編成と実施、評価 ○ 全教職員の協力体制の確立 ○ 研修の充実と指導力の向上 ○ 学校運営協議会を通じた地域社会との積極的な連携・協力
<p>学級経営</p> <p>○児童生徒理解を深め、信頼関係や好ましい人間関係を育てるとともに、魅力ある学級づくりに努める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の教育目標の実現を目指し、創意工夫を生かした学級経営の推進 ○ 児童生徒一人一人が様々な活動に自主的、実践的に取り組む学級経営の推進 ○ 児童生徒の発達を踏まえた計画的・継続的な評価の実践 ○ 児童生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす指導の工夫 ○ 特別な教育的支援を必要とする児童生徒一人一人に応じた指導や支援の実践
<p>学習指導</p> <p>○生きる力を育む授業の創造を目指す</p> <p>主体的・対話的で深い学びの展開の推進 (I)</p> <p>ICTを効果的に活用した授業実践 (I)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科・領域における指導と評価の一体化 ○ 児童生徒一人一人に応じた指導の充実 ○ 英語教育・ICT教育の推進 ○ 各種調査(学力・学習状況調査等)結果の分析を活用した学力向上の取組の充実
<p>生徒指導</p> <p>○心豊かな児童生徒の育成を目指す</p> <p>心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の推進 (II)</p> <p>いじめ・不登校の未然防止の推進 (II)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の育成と生き甲斐のある学校生活の実現 ○ 全教職員の共通理解に基づいた校内指導体制の確立と積極的な生徒指導の推進 ○ 小・中連携を始め、家庭・地域社会、諸機関との連携の推進
<p>進路指導・キャリア教育</p> <p>○自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、進路指導・キャリア教育の充実を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員による協力的指導体制の整備と系統的・組織的なキャリア教育の推進 ○ キャリア形成を促進するキャリア・パスポートの活用と蓄積の研究 ○ 児童生徒理解に基づく進路指導・キャリア教育の推進
<p>道徳教育</p> <p>○自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、よりよく生きるための基礎となる道徳性を育成する</p> <p>豊かな心を育む教育の推進 (II)</p> <p>道徳科における指導と評価の充実 (II)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳教育の重点目標を明確にした全体計画の活用による、意図的、計画的な教育活動の充実 ○ 「想像ある態度」をはじめとする基本的な生活習慣や社会生活上のきまり、基本的なマナーの育成に關わる指導の充実 ○ 道徳科をはじめ、教育活動全体を通じた関連的、発展的な指導の充実
<p>総合的な学習の時間</p> <p>○自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域や学校、児童生徒の実態等に応じた全体計画の作成・改善 ○ 指導と評価の計画の改善・充実に向けた組織的・計画的な取組 ○ 保護者や地域の人々の教育力を活用した体制づくりの推進
<p>特別活動</p> <p>○様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の創意工夫を生かした指導・評価計画の活用と改善 ○ 学級や学校での生活をよりよくするための学級活動の推進 ○ 学校行事の(感染症対策を含む)実施方法の再考と精選
<p>学校教育相談</p> <p>○児童生徒が抱える悩みや不安などを解消するために本人又は保護者などへの支援を通じて、よりよい人権の形成を図る</p> <p>いじめ・不登校の未然防止の推進 (II)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育相談体制の充実(さわやか相談員、スマイル相談員、SC、SSWの配置、教育センターの運営、適応指導教室の運営、特別支援教育との連携) ○ 学校教育相談の積極的推進(不登校児童生徒の登校支援) ○ 相談機関等との連携 ○ 各種調査結果の分析を活用した児童生徒理解の推進
<p>体育</p> <p>○健やかな体と豊かな心をもった児童生徒を育成する</p> <p>体力向上を目指した学校体育の充実 (III)</p> <p>性別の専門的な指導方法を取り入れた体育授業の推進 (III)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心と体を一体としてとらえ、児童生徒一人一人が運動の楽しさや喜びを味わえる指導の実践 ○ 体力向上を目指した体育的活動の実践 ○ 体育施設・設備の整備と事故防止の徹底
<p>健康教育</p> <p>○生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を主体的に実践できる児童生徒を育成する</p> <p>食育を通じた健康教育の充実 (III)</p> <p>家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進 (III)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康の大切さを認識し、健康課題を解決するための資質・能力の育成 ○ 自他の生命を尊重し、自他の安全に配慮した行動できる資質・能力の育成 ○ 感染症対策の徹底と心のケアの推進 ○ 家庭・地域社会・関係機関等と連携した取組の実践 ○ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣の形成
<p>人権教育</p> <p>○人権問題を正しく理解し、人権感覚を身に付け、様々な人権課題を解決しようとする児童生徒を育成する</p> <p>学校教育における人権教育の推進 (II)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員の共通理解に基づく推進体制の確立 ○ 児童生徒の発達段階を踏まえた全体計画や指導計画に基づく様々な実践 ○ 指導内容・指導方法の工夫・改善と「人権感覚育成プログラム」の活用
<p>特別支援教育</p> <p>○全ての学校において、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する</p> <p>共生社会を支える特別支援教育の推進 (I)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 適切な就学相談の充実 ○ 児童生徒一人一人の実態に応じた教育的支援の充実(こぼの教室・通級指導教室) ○ 特別支援教育推進を図る校内支援体制の充実 ○ 研修の充実と指導力の向上
<p>国際理解教育</p> <p>○グローバル化に対応する人材の育成を推進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の向上 ○ 外国人児童生徒、帰国児童生徒の支援 ○ 日本や地域の伝統や文化等の認識を深める教育の推進
<p>情報教育</p> <p>○情報及び情報手段を主体的に収集・選択し、活用できる情報活用能力を育成する</p> <p>時代の変化に対応する教育の推進 (I)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒や地域の実態等を踏まえ、情報教育を位置付けた教育計画の充実 ○ ICTを活用した学習指導の充実と諸条件の整備 ○ 情報モラルを身に付け、情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できる学習活動の充実
<p>環境教育</p> <p>○環境を大切にするとともに主体的に行動できる能力や態度を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体計画・年間計画に基づいた指導の充実 ○ 持続可能な社会の実現のため、環境を守ろうとする心と態度の育成 ○ 地域の自然環境や社会環境等を生かした環境教育の推進
<p>ボランティア・福祉教育</p> <p>○社会福祉への関心と理解を深め、互いに支え合い、豊かに生きていこうとする心と態度を身に付ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階に即したボランティア活動・福祉体験の実践 ○ 学校や地域の実態に即したボランティア活動・福祉教育の推進
<p>男女平等教育</p> <p>○児童生徒一人一人が個性や能力を発揮して、自らの意思により行動できるよう、男女平等の意識を高める教育を推進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育活動全体を通じた組織的・継続的な指導の推進 ○ 発達段階に応じた指導内容・指導方法の工夫・改善 ○ 家庭や地域社会との連携
<p>学校図書館教育</p> <p>○学校図書館の利用に必要な基礎的な知識や方法の習得及び自発的な学習の態度の育成に努める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校図書館の利用を位置付けた指導計画の作成 ○ 学校図書館を利用した学習の充実、情報活用能力の育成 ○ 市内各図書館と連携した子供読書活動の推進

生きる力を育み
未来へはばたく
桶川の教育



令和3年度桶川市の教育

桶川教育の3本柱

確かな学力

豊かな心

健やかな体



- ◆「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と各教科等における指導と評価の一体化の推進
- ◆ICTを効果的に活用した授業の実践
- ◆T.T.や教育指導補助員の活用によるきめ細やかな授業支援の推進



- ◆道徳科における指導の充実
- ◆学校における人権教育の推進
- ◆心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の推進
- ◆相談員の全校配置等教育相談の充実といじめ・不登校の未然防止のための組織的取組の推進
- ◆共生社会の形成を目指した特別支援教育の推進



- ◆体力向上を目指した学校体育の充実
- ◆プール民間委託等外部の専門的な指導方法を取り入れた体育授業の推進
- ◆食育を通じた健康教育の推進
- ◆家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進

◇道徳教育研究推進モデル校 桶川西中 11月26日(金)発表

◇生徒指導研究推進モデル校 桶川東中・桶川西中 ◇学校運営協議会設置 全小・中学校

桶川市教育委員会・桶川市教育研究会委嘱研究 本年度本発表

- ・川田谷小 11月25日(木)【学力向上】主体的に学習に取り組む児童の育成
～国語・算数の学習活動の工夫を通して～
- ・桶川東小 10月29日(金)【国語科】論理的に文章を読み取ることができるけやきっ子の育成
～児童が楽しく学び合い、「わかる・できる」授業づくり～
- ・桶川小 10月22日(金)【国語科】自分の考えを持ち、生き生きと交流する児童の育成
～「伝えたい」を高める授業づくり～
- ・桶川中 11月24日(水)【学習指導】「深い学び」へ導く授業の在り方を目指して
～主体的な学びを通じた表現力の育成～